



二段階アクションを使い分けて



前輪が描く軌跡が、円弧ではなく、角が出来てクキッと曲がるイメージなんです。

タイトターンの攻略法が続きます。

前月は、ターン途中の障害物を越えるために「ターンしながらフロントアップ」をしました。ステップ加重を維持しながら前タイヤを浮かせてターンするテクニックですね。もちろん、かなりの小回り（タイトターン）をする場合に生きてくるテクニックです。

今月は同じところを同じように曲がるテクニックを説明します。おそらく、連続写真を見ただけは先月と違いが判らないかも知れません。しかし、やっていることは「違うテクニック」ですから、そのつもりでいてくださいよ。先月号と読み比べてもらうとよく判ると思います。

タイトターンの途中で、前輪が写真のような木の根などの障害物を越えなければならないような場合。出来るだけゆっくりと回りながら、木の根に近づきます。ターンの最中ですから、もちろんオートバイはターン内側に傾いていますね。で、「よし！ここだ！」と前輪を浮かせる瞬間(出来れば一瞬でも落ち着いてスタンディングスティルをして間を取ります)には、左右のステップの加重を5:5にします。つまりまっすぐ立つことになります。そこから小さく鋭く、でも確実にフロントアップの動作をして、前輪を根っこの上に運びます。大きく山な軌跡ではなく、最小限に、がポイントです。そして乗った時点で思い切って外足の加重を抜く（つまり内足に荷重がかかる）&ハンドルを切ると、前輪のターンの軌跡は円ではなく、クキッとそ

こで折れ曲がるようなイメージになります。そしてそのままターンを続けます。先月のターンを、二段階に分けて確実に行う行き方なんですね。

前輪の軌跡は、お掃除ロボットが壁に当たってクイッと向きを変える、そんなイメージです。このテクニックを身につけるポイントは、

1. 前輪を置く位置を良く狙う
2. ギリギリ、最小限のフロントアップ
3. ボディアクションで前輪を浮かせ、出来るだけ前に進まないこと
4. 前輪が乗ったら、思い切ってしっかりタイトターン姿勢をとること

前輪を浮かす時に駆動力を使うと、前にも進んでしまいます。そうすると曲がれるところも曲がれなくなるので、「最小限」がとても重要なんですね。駆動力=前進、ですから、出来るだけ駆動力を使わないこと、そうすると的確なボディアクションが大事になります。前輪が載った瞬間に大きくハンドルを切り、オートバイを傾ける、これも瞬間技です。このアクションが出来ると、後輪はほとんど前進しないので、小さく曲がったすぐ先に障害物や登りであっても、アドバンテージが生まれます。「なぜあの人だけが行ける？」と思うような場面では、こういう細かいけれどしっかりした技が隠されているんですね。